

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成に学ぶ生徒の育成</p> <p>【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりのある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒</p> <p>【重点課題】 ・小中一貫教育の手法を用いた授業改善と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止</p>	<p>【授業改善と学力の向上】 ○ベア学習、グループ学習が定着し、生徒の学び合いの場が増え、そのことが学力の向上につながっている。 ○少人数、T T加配の配置された英語科で、個に応じた指導が推進され、学習意欲の向上が見られる。また、英語科を柱に峰山高校との連携が進んだ。 △教科部会を充実させ、学力課題の大きい生徒を授業に巻き込み、生徒がより主体的に授業に臨めるよう毎時間の課題設定を工夫する。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○SSW(スカパーチャカ：社会福祉士)の配置を受け、福祉の専門家からの見立てができた。カウセンリングで直接生徒に関わり、不登校の未然防止につながったケースもある。 △不登校に対応する組織体制は確立したが、結果として2学期から、特に2年生で新規不登校があった。今年度以上にSSWを活用すること、関係機関とのさらなる連携が必要である。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>【授業改善と学力の向上】 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。 ・外部講師を招き校内授業研究会を活性化させる。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ・不登校解消に向け①管理職の教育相談部会への参加②心の教室相談員、S C、SSWの教育相談部会への参加③迅速な校内ケース会議の開催)を継続する。 ・考え、議論する道徳の授業の研究を進める。 ・問題事象やいじめの早期発見・早期対応を組織的に進める。</p>	
<p>評価項目 教育課程 学習指導</p> <p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>重点目標 ・言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を小中一貫して研究する。 ・指導方法の工夫改善により学力向上と学習意欲の向上を図る。</p>	<p>具体的方策 ・①生徒が主体的に活動する場面を設定された授業②本時の目標が明確で「わかる」授業③多様な学習形態を取り入れた授業の研究を進める。 ・5・6年担任と数学科教員が協働して総括テストを作成し、目標と指導と評価の一体化を進める。 ・各種テスト結果の分析に基づき、授業の在り方や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の工夫を行う。 ・週末課題や日々の宿題の充実を図り、家庭学習充実の取組を保護者と連携して取り組む。 ・少人数、T T授業(英語)を効果的に実施する。</p>	<p>成果と課題(自己評価) ○小中一貫教育の成果として、中学校における授業改善が進み、教師の講義型授業からペア学習・グループ学習を取り入れた生徒主体の授業に変わってきた。 ○授業改善が学力向上に結び付き、各種学力調査でもおおむね京都府・全国平均を上回る結果を上げている。 △一部の教科・学年では、学力差が広がり、基礎学力の定着に課題がある生徒が少なくない。学校全体で学習への意欲を喚起する取組を継続している。 ○峰山学園全体で、家庭学習充実の取組を年3回実施し、保護者の協力も得られ、学習への動機づけができた。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を早期に把握し、不登校の解消と未然防止を図る。 ・生徒の内面に迫る指導を行い問題事象の減少を図る。 ・生徒の主体的な取組を進め自己肯定感を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の解消と未然防止に向け、教育相談部会やケース会議で、SCやSSWを活用しながら、具体的な方針を立て実践する。 ・いじめや問題事象の未然防止のため、生徒とのふれあいの時間を確保し、毎週の生徒指導部会及び学年会で情報交流し全教職員で指導する。 ・全校集会・学年集会の実施や、生徒会活動において、生徒の主体的な活動を組織していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の状況が安定し、学校全体がたいへん落ち着いた環境の中で教育活動が進められている。1年生男子でささいな諍いから生徒間暴力が多発した。不登校生徒が高止まりしており、生徒の気持ちに寄り添った生徒指導や保護者・関係機関との連携がますます重要である。 △生徒同士の言葉遣いやSNSの使い方により、いじめにつながるおそれがある。
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・保健教育を系統的に進める。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導を徹底する。(交通教室、PTAとの連携) ・保健学習、保健指導を計画的に進める。また、道徳・総合的な学習・特別活動との関連を図る。 ・避難訓練(地震・火災・不審者侵入)を実施し安全意識を高める。 ・積極的に部活動に取り組みさせるための指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○車との接触事故が減り、生徒の安全意識の高まりが見られる。H30 4件⇒R1 2件(12月末現在) ○保健学習では、助産師、看護師、保健師などの外部人材を活用し、専門家の話により深い学びが得られた。 ○定期的に部活動長会を持つなどして、生徒が主体的に部活動に参加できるようにした。各種大会での好成績につながっている。
研修(資質能力向上の取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領へ対応した研修を充実させる。 ・初任者研修を契機に教職員の資質能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを目指し、外部講師も招聘しながら研修を進める。 ・全教職員で初任者の育成を図る過程を通じて、自ら研修を深め、併せて教育活動の見直しを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年3回外部講師を招いて、研究授業を行うとともに講話を聴くことにより、教員の意欲が高まり授業研究が進んだ。来年度以降もぜひ継続したい。 ○計画通り初任者研修を進めることができ、初任者の登業技術の向上はもとより、研修講師を務める教員も改めて道徳教育や人権教育の要諦を再認識できた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒への理解を深め、指導方法を研究する。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級が3学級になったことを受け、より一層特別支援教育の研修を積むとともに、新たに聴覚障害への理解を深める。 ・個別の教育支援計画等を充実させ、生徒支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○京都府北部聴覚支援センターや京都府スーパーサポートセンターから講師を招き、聴覚障害理解及び合理的配慮の仕方等の校内研修を行うことができた。 ○個別の教育支援計画(未来シート)の作成により、保護者と学校が一緒になって生徒の支援ができた。このことが不登校の未然防止にも効果的であった。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 令和3年度からの中学校における新学習指導要領の完全実施に向けて、小中一貫教育の手法を用いながら、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりをさらに進めていく。 ② 不登校やいじめの未然防止に向けて、あらゆる教育活動を通じて、生徒同士のつながりを深める取組を進める。同時に、気になる生徒の様子を見逃さない教職員の危機意識と危機意識を高める研修を継続的に行っていく。 		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 夢や希望を持って未来を切り拓く能力と実行力の育成</p> <p>2 学習意欲を高める授業改善と家庭学習の定着</p> <p>3 健康な体と豊かな心の教育の充実</p> <p>4 信頼され、開かれた学校の学校づくり</p> <p>5 教職員の資質能力の向上</p> <p>6 大宮学園小中一貫教育の推進</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○教育活動全体を通して話し合い活動や討論活動を積極的に導入し、言語活動の充実に努めることができた。</p> <p>○人権教育をはじめ道徳教育や特別支援教育に重点を置いた校内研修を充実させたことができた。</p> <p>○授業の生徒評価は、「わかりやすい」が28年度85%、29年度89%、30年度88%と継続して高い。</p> <p>○生徒の自己有用感を培う取り組みを通して、生徒同士が「協力し合えた」H28 94%、H29 96%、H30 96%と高く評価している。</p> <p>△学力の定着・向上に向け、授業と連動させた家庭学習の取組や「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の取組を推進していく。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 質の高い学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善 ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 <p>2 生徒指導の充実と不登校の未然防止と丁寧な対応</p> <p>3 人権教育を基盤とした指導の展開</p> <p>4 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 <p>5 信頼される学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭及び地域との相互連携の推進 ・外部関係機関との連携強化 <p>6 大宮学園運営協議会に向けた動きづくり</p>
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善 ・客観的データを活用した課題分析と授業改善 ・「ことばの力」「思いや心」「つながる力」を育成する授業づくり ・丹後学の研究と推進 ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○視点を持って合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、分科会での協議が有効で、小中互いに学ぶことができた。</p> <p>○第1回授業研究会を京丹後市小中一貫授業研究会と兼ねて実施したことで、研究を深めることができた。</p> <p>○全国学調及び府学テ等、各種学テ結果を分析し、校内研修で交流を行った。授業改善や補充学習に生かすことで学力の伸長が見受けられた。</p> <p>○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。</p> <p>△特別に支援を要する生徒、基礎基本の未定着の生徒が各学年に在籍しており、支援の在り方について共通認識を持ち、個別の指導を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。</p>
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>具体的方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮学園教員合同の授業研究と合同研修会を実施し、授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・全国学調及び府診断テスト等の結果を分析し課題改善に向けた授業づくりと補充学習を充実させる。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して「ことばの力」カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・「ことばの力」カリキュラムを活用し、思考力、判断力、表現力を育成する。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習習慣張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。 	<p>成果と課題(自己評価)</p> <p>○視点を持って合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、分科会での協議が有効で、小中互いに学ぶことができた。</p> <p>○第1回授業研究会を京丹後市小中一貫授業研究会と兼ねて実施したことで、研究を深めることができた。</p> <p>○全国学調及び府学テ等、各種学テ結果を分析し、校内研修で交流を行った。授業改善や補充学習に生かすことで学力の伸長が見受けられた。</p> <p>○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。</p> <p>△特別に支援を要する生徒、基礎基本の未定着の生徒が各学年に在籍しており、支援の在り方について共通認識を持ち、個別の指導を丁寧に行い、基礎学力の定着を図る。</p>

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の合同生指部会の開催 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・定例の生徒指部会で、いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園人権・生指部会を通し、連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指部会を開催し、日々の情報共有と指導の一致を徹底する。 ・学校環境適応尺度診断(ASSSS)、生徒アンケートを活用し、教育相談活動を丁寧に行う。 ・生徒指部会と教育相談部会を合同開催するとともに、特別支援教育部との連携も強化する。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・人権教育をすべての指導の基盤にし、生徒同士の信頼関係の構築に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組の充実を進めた。 ○生徒指部会と教育相談部の部会を分けることにより、部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 ○いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめ事象を教材化し、全校で防止教育を進めることができた。 △不登校の生徒の出現率は昨年と比べると低くなったが、後半新規不登校の生徒が増えたとともに、不登校状態の深刻化も見られ、大きな課題である。
健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や交通マナーの向上に向けた取組を通して、安心安全な学校生活について指導し、生徒自らの安全意識を高める。(大宮こども園との合同避難訓練を実施する。) ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため日々の部活動指導を大切にす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に避難訓練を実施し、身を守る行動について考えさせることができた。 ○薬物乱用防止教室、性に関する学習を通して自分の生き方を考えさせることができた。 △さらに、部活動を通して自己肯定感や自己有用感を醸成させていく指導を行う。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源の教育活動への活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会(コミュニティ・スクール)に向けた動きづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターを通じて、学園教育支援協議会や地域学校協働活動との連携を強化し、学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)に向けた動きづくりを学園として行う。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○絵本の読み聞かせ、総合的な学習の時間でのゲストティーチャー等、地域の方々や学校とをつないでいただき、大変深く学べる機会を作っていた。 △次年度から学園運営協議会(学園コミュニティ・スクール)の動き出しを行い、学園運営について地域との連携をさらに進めていく。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な取組の強化 ・個々の生徒の実態と教育的ニーズを把握した指導展開 ・特別支援教育についての理解と認識の深化 ・保護者及び関係機関との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターを中心に学年団や各担任、サポーター等との連携を強化する。 ・個別の指導計画や教育支援計画を随時見直し支援にあたる。 ・教科部会を行い共通理解を図り、個に応じた指導にあたる。 ・通常学級に籍を置く配慮の必要な生徒への支援の状況を把握し、共通認識をもって支援を行う。 ・保護者との共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年団や各担任、サポーターとの連携により必要な生徒への支援を行うことができた。 ○教員の共通認識を丁寧に持ち、保護者と連携することができた。 △さらに、特別支援コーディネーターを中心に組織的な特別支援教育を推進する。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 1 大宮小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「効果的・効率的精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2 学力向上に向け学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園研修での授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。 3 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能を強化し、全教職員であたる。 4 大宮学園教育支援協議会から大宮学園運営協議会への円滑な移行を図り、より地域とともにある学校・学園を目指す。 		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
<p>本市の小中一貫教育の基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくりをさらに研究し、実践する。</p> <p>・基礎基本の徹底及び活用する力を身に付けさせる指導の工夫改善を図る。</p> <p>・家庭学習を習慣化させる。</p>	<p>・少数グループ研修と、年間3回の全体研修会とを組み合わせる中で、指導の工夫・改善を図り、具体的な実践により教育効果を確かめるサイクルで研究を進める。</p> <p>・学習の形態について、特に「対話的な学び」をピックアップし、学校課題である不登校の解消に向けた生徒同士をつなぐ視点を生徒指導の三機能とリンクさせて行ない、「主体的な学び」へとつなげる。</p> <p>・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の習慣化を図る。</p>	<p>○小中連携加配が主任を務める学力向上部から授業改善や工夫等に関する定期的なたよりが継続して発行されたことにより年間を通じた研修を行うことができた。</p> <p>○小学校の学習指導における具体的工夫を中学校(特に1年)の指導へ組み込むことで、生徒が感じる学習面に対する不安や段差解消の取組を進めることができた。</p> <p>△家庭学習については、次年度も一貫校PTAの取組とも連携させ、学園全体で取組を充実させたい。</p>
生徒指導	<p>・「自己指導能力」を育成する。</p> <p>・「居場所づくり」と「絆づくり」の理解と共に、これらの指導バランスを図る。</p> <p>・不登校を学校課題ととらえ、早期解消と未然防止についての取組を強力に進める。</p> <p>・いじめ等、人権侵害を未然に防止する。</p>	<p>・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒とともに意識し、両者の相互の取組によって育てていくことを毎回確認する。(居場所づくりと絆づくり)</p> <p>・「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ」を職員の合言葉とし、職員全員が実態把握、的確な評価と集団への価値化、つながる場の設定を繰り返し積み上げること。</p> <p>・個々の役割を明確にする中でチームとしての総合力で取組を推進する。(管理職とコーディネーターが主となり、一番効果的な職員が生徒・保護者への支援等を行なう。)</p>	<p>○生徒指導の三機能を意識した授業を行うことにより、他者との関わりの中で思いを深めたり、自己を認めたりすることがスムーズにできるようになっていく。</p> <p>○同・異学年の仲間や支えてもらっている家庭や地域との関わりを、具体的な言動としての「つながり」として認識させる中で、他者とのつながりの大切さを理解できる生徒が増え、安定した生活へとつながっている。</p> <p>△不登校の未然防止と早期対応の取組を、学校内外の専門家とチームを組み、学園としての取組を進めたい。</p>
<p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p>将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進</p> <p>1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を身に付けさせる。</p> <p>2 未来を展望し、将来を切り拓く力をすべての子どもに身に付けさせる。</p> <p>3 思いやりをもち、仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育成する。</p> <p>4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育成する。</p>	<p>○授業づくり、授業改善を主とした校内研修会を隔月で開催したこと、また府中研教学研究会を期とした学習環境づくりを、年間を通して行なったことにより校内での授業改善等を大きく前進させることができた。</p> <p>○日常的な教員と生徒との関わり(業間指導や相談タイムの実施、生徒指導部の気づき等)により、良好な関係が深まり、問題事象も激減した。(H29 22件⇒H30 5件)</p> <p>○反面不登校生徒が急増し、年間30日以上の欠席生徒割合が4.34%(出現率)となり、学校の喫緊の課題である。</p> <p>○定期テスト前後以外の家庭学習の取組等に課題があり、習慣化まで至っていない生徒が2年生を中心に多い。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」の展開。</p> <p>生徒へは、「つながるよう仲間と。つなげよう心を！」を合言葉に設定し、常につなぐを意識して生活させる。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり</p> <p>(2)「生徒指導の三機能」を生かした授業づくり</p> <p>(3)家庭学習の習慣化</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成</p> <p>「特別の教科 道徳」の研究と充実</p> <p>3 健康の保持増進と体力の向上</p> <p>食育の取組や文化部を含む部活動等を通して育成</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」の展開。</p> <p>生徒へは、「つながるよう仲間と。つなげよう心を！」を合言葉に設定し、常につなぐを意識して生活させる。</p> <p>1 確かな学力の向上</p> <p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり</p> <p>(2)「生徒指導の三機能」を生かした授業づくり</p> <p>(3)家庭学習の習慣化</p> <p>2 豊かな人間性・社会性の育成</p> <p>「特別の教科 道徳」の研究と充実</p> <p>3 健康の保持増進と体力の向上</p> <p>食育の取組や文化部を含む部活動等を通して育成</p>

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上を図る。 ・望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テストや全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、運動部だけでなく、文化部活動における健康増進・体力向上の取組も定期的に実施する。 ・毎月の食育の日や給食週間の取組をさらに充実させる。 ・避難訓練、非行防止教室等を活用し、自他の命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動や体育の授業を中心に、基礎体力の向上はもとより、種目の特性に応じた技能を高めることもできた。 ○望ましい食生活について栄養士を講師に具体的な学習を取り組むことができ、生徒会活動としても充実した。 ○地震から津波発生を想定した避難訓練や非行防止教室、SNS講習会等を実施し安全に対する意識と状況に応じた具体的な行動の仕方を全校生徒で確認できた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAや教育応援会等、地域と共有する学校を目指す。 ・信頼関係をベースとした学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな組織や団体等と連携する機会を通じて本校の学校教育について説明を行ない、今年度の「学校経営方針」の理解を進めていく。 ・地域の宝である生徒のがんばりや教職員の具体的な取組を、学校だよりやホームページにおける発信と、積極的な学校公開を実施する中で地域との横の連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTAや学校評議員様をはじめ、各種団体と連携を行う中で、授業や行事で生徒の活動を見ていただきたり、声をかけていただいたり、生徒にとつて包み込まれているという安心をさらに感じさせることができた。 ○学校だよりの月2回の発行やホームページの積極的な更新等、積極的に発信を行った。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒や保護者のニーズに合わせた支援を充実させる。 ・個々の生徒に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る。 ・校内教育支援委員会の運営を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「障害者差別解消法」の手指の理解とともに、生徒の実態をもとにした保護者との連携を日常的に丁寧に継続して行う。 ・「個別の指導計画」、教育支援計画」における指導・支援計画を保護者のニーズに合わせて作成し、通常学級に在籍しているであろう生徒も含めて個に応じた指導の推進と指導方法の工夫改善を図る。 ・定期的な校内教育支援委員会の開催とあわせ、内容の充実を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別の指導計画」及び「教育支援計画」を作成し、個々の状況に応じた指導・支援を家庭との連携の中で実施することができた。 ○障害の特性などを正しく理解するとともに教職員間で共通した指導や支援等を継続して行うことにより、二次障害の防止だけではなく、学習活動への意欲を高めさせることができた。 △特別な支援が必要な生徒が増加する中、丁寧で正確な見立てと保護者との連携をもとに具体的な支援を取り組む必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを成長させること、他人を認め大切にする（つながり）の中からも感じ、考えさせたい。そのために、授業はもとより、特別活動（学級・学年や学校行事、生徒会活動、部活動等）などすべての教育活動を通じて、ペアやグループなど集団で行う活動を仕組むこと。 ・特に授業においては、単なる知識や技能の習得ではなく、他者とのかかわりを通してどんな状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育てる中で、自らの可能性に気付かせ、更なる学びに向かう力や自他を大切にすることの居場所が学校内に出来上がり、学力の向上はもとより、そんな集団を様々な場面で構築できれば、集団内での生徒同士の絆や一人一人にとつての職員とともにも共通理解する中で取組を進めたい。 ・不登校やいじめ事象を未然に防止することにもつながるのではないかと、柱の一つとして、具体的な取組へと落とし込んで実践していく。 ・上記の内容については、網野学園保幼小中一貫教育の経営方針の柱の一つとしても、具体的な取組、さらには確実な移行措置を実施していく。 		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>開校6年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性に果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p>		<p>昨年度は、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にして、落ち着いた学校生活に取り組み、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。校風も落ち着き、しっかりしたものとなってきた。さらに、自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせたい。</p>		<p>丹後中学校開校6年目にあたり、個々の生徒が本物を目指し、生き生きと挑戦する学校にする～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉に進める～ ○生徒の可能性へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動の充実」等によるコミュニケーション能力の育成を図る。 ・数学の指導の研究を重点教科として進める。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科に言語活動を取り入れるようにし、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、「ことばの力」を育成し、確かな学力の定着へ向けた実践を行う。 ・目標と指導と評価の一体化した取組を、「算数・数学」の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・ねらいを明確にして、ドリルや家庭学習課題に継続して取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に生徒指導の機能を活かすためのチェックリストを全教職員が活用し、学期ごとに教員間での工夫内容の交流など研鑽に努めた。 ○年3回の小中学校授業公開を行い、生徒指導の三機能を生かした授業とは、どのような授業かを目指し、「国語」・「社会」・「数学」の授業研究を通して、丹後学園全体で研究ができた。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・丹後学園のめざす子ども像の実現への取組を進める。 ・安心できる仲間関係を築かせる。 ・SNS等の使用について、実態把握による指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中のみならず業間指導を全教職員で丁寧に行い、生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果を基に組織的対応・指導に努める。 ・SNSや薬物等に係る「非行防止教室」や講演会を計画的に実施し、自他を大切に、正しく判断し行動する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己決定の場や自己存在感をいかにして与えるか、共感的人間関係をどのように育成するかの具体の指導について研修を進め、休み時間や空き時間など、あらゆる教育活動の場で生徒に寄り添い、自己指導能力の育成につなげることを重点に、年間取り組むことができた。 ○生徒指導部会・教育相談部会を時間内に設定し、週ごとの指導の方向性を明らかにして教職員全員で指導にあたることのできた。いじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行う。さらに、全教員による「相談タイム」を学期ごとに行い、いじめの未然防止、早期対応につなげた。 		

健康(体 育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育てる。また、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の指導を学校生活の向上につなげ、体育系・文化系部活動かかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後小中一貫校 PTA 並びに本校 PTA・丹後学園教育応援会等との連携を強め、あいさつ運動や登下校指導を実施する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、常に危機意識を持ち指導にあたる。また、ねらいをしつかりと持たせた避難訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○大会や試合、発表や作品の作品展等、日々の頑張りを発表する場として、また、礼儀やマナーを学ばせる場として部活動の指導にあたることになった。 △さらに、生徒の安全安心な学校生活のために、危機意識を持って指導にあたる。 △喫緊かつ重要な課題提起を狙って、SNS 教育講演会を丹後学園として実施すること。 ○計画したが、実施できず、継続課題である。 ○丹後子ども園との合同避難訓練は今後も継続し、自己肯定感を育む学習につなげる。
開かれた 学校づく り	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への学校公開等の教育的に行い、開校6年目の機会を理解していただく。 ・学校だけでなく、地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式等の儀式や合唱祭・学習発表会・部活動公開等、様々な教育活動の場面を多くの方に見ていただく機会を計画する。保護者の方だけでなく、「丹後学園教育応援会」との連携を活発にして、いただいたご意見や感想を今後の学校経営に活かす。 ・地域の取組に積極的に参加し、中学校の状況を伝えると同時に丹後小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのために、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や学園の行事や取組は広く案内をし、学校での生徒の頑張りを励ましていただくと、よりよい環境づくりに努めることができた。 ○市の教育フォーラムにおいて、丹後学園の取組を広く発信することができた。また、「応援会」主催の子育て講演会の開催など、地域の教育力向上につながる連携が充実した。来年度も継続していきたい。 ○公民館事業など、地域で発表する場には積極的に生徒が参加し、地域の中で地域の子どもとして活躍する場を今後も作っていく。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただくよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努める。
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のそれぞれの特性について、理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあつた支援を、全教育活動を通じて行う。 ・関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画や教育支援計画に沿って、個々の課題に応じた指導・支援を、保育園中の一貫性・連続性を大切にしながら行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒についても、校内委員会などの組織的な適切な支援を実施する。 ・校内研や研修会などを通して指導の充実を図り、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒について、関係機関と連携を図りながら、共通理解のもと、支援を行うことができた。 △さらに、支援の充実のための環境づくりと指導の充実が必要である。
次年度に向け 改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校づくりをさらに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のために生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努める。 ・新学習指導要領にもとづいた教育課程づくりや授業改善を進める。 		

京丹後市立弥栄中学校 [学校名]

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>困難な出来事であろうとも、問題解決に向けて習得した学びをもとに、考えをめぐらし適切な改善策を仲間と共に力を合わせる人間性を涵養する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と共に描いた夢や希望をあきらめらることなく、実現しようとする生徒の育成 		<p>めざすべき進路が具体的にイメージできず学習意欲につながらない生徒や基礎学力の定着に課題があり発展的な問題への対応に苦慮した生徒もいた。確実に理解ができたかどうかの検証が必要であり、日々の活動において心身ともに安心できる学年・学級経営を進める指導力の向上をさせることである。</p>		<p>自ら課題を見出し、解決策を仲間と共に協議し合うことのできる環境整備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着（主張できる力、反論や応答できる力の育成）をめざす ・異なる意見を踏まえ、折り合いをつけることのできる話し合い活動をめざす ・互いが認め合える仲間関係の構築をめざす 	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題（自己評価）	
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・文面を読み取り、じっくり考え、理解した内容をもとに発信できる力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語を正確にとらえ、表記されている内容や発言の意図を理解できたか検証する。 * 学びの定着を図る小テスト、単元テスト等の実施 * 仲間と課題の改善策を練り、最適解の探究 * テスト結果の分析、教え直し 		<ul style="list-style-type: none"> ○国文法の習熟により読解力が向上してきた。 ○仲間と教えあうことが定着し、英語の基本問題に意欲的に取り組む生徒が増えた。 ○放課後学習が奏功し、課題未提出者が減った。 ● 熟考すべき問いを盛り込んだ試験の作成が要る。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体でいじめ、不登校の未然防止、迅速且つ丁寧な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的ないじめアンケートや担任等による個別面談を行い、生徒の状況把握に徹する。 * いじめ対策委員会の定例化、生徒の状況交流 * 生徒指導の3機能を生かした教育実践の検証 * 生徒指導部会、教育相談部会との連携 		<ul style="list-style-type: none"> ○日常的に生徒と面談する機会を設け、良好な関係づくりを図った。関連分掌との連携も行った。 ○各自が探求したことを発表することができた。自信も出てきた。 ● 将来を見据え、生徒の可能性をさらに発揮させること 	

本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立のもと、心身ともに健康な生活を過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝のランニングで健康な体づくりをすること、学習意欲に弾みをつける。 * マナーの習得(思いやり、協力、時間厳守、感謝) * 身に付けた体力を部活動に生かし、自信をつける ・安心安全な学校生活を過ごす。 * 集団生活をとおして、危機回避能力の習得 * 避難訓練の実施、危機意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 時間厳守して、朝のランニングを継続させた。 ○ 偏食をなくし、健康な体と心を意識した生活ができた。 ○ 安全で安心できる学校生活ができた。 ● PC,TV,ゲーム等の時間を自分自身が制御できる力に身をつくよく指導を継続させる。
研修	<p>指導者としての資質向上をめざした校内研修を行い、日々の実践に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業づくりにかかわる研修 * 課題解決型学習の推進 ・ 生徒の自尊感情の醸成につながる研修 * 目標設定を行い、適切な指導と評価の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 課題設定し、探求し、深い学びにつながる指導により生徒は自らの考えを広く発信することができた。 ○ 生徒をいかに理解するのか、学習内容について理解させる道筋や適切な評価方法を研修し、授業に生かした。 ● 生徒のまとめあげた考え(仮説)を検証させるまでには至っていない。
特色ある学校づくり	<p>小学生と中学生の交流活動を行い、中学生としての自覚と責任をみにつける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の行事、授業に招待する * 合唱祭、体育祭、特別活動、部活体験、体験授業 ・ 児童会役員と生徒会役員と協議し、取組を行う。 * 挨拶の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学生は、中学校の行事の参観のみならず、中学生とともに参加し、中学生になった自分自身をイメージする機会となった。 ● 小中の事前打ち合わせ等、教師と生徒ともに十分な時間が持てなかった。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 課題解決型学習をとおして、自らの考えや発信できる力を見つけてさせる。 2 良好な人間関係を構築させるために異年齢の活動を活発にさせる。 3 生徒の実態を把握し、個に応じた指導方法について校内研修を進める。 4 小中連携、保護者、地域、関係機関とも連携を密にし、生徒の成長を支援する。 		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜中学校]

評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)
<p>本市の小中一貫教育の語計画及び各学園の重点等を基礎として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 地域の特性を生かした教育課程の編成、教科横断的な教育活動の推進</p> <p>2 授業実践力の向上</p> <p>3 家庭学習時間の確保</p>	<p>◇丹後学の充実：1年地域調べ(京丹後・久美浜)、2年職場体験・立志式、3年福祉体験(サロソ活動、介護体験、提言)</p> <p>◇教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育の実施</p> <p>◇校内授業研(「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業)、公開授業(道徳科、各教科)の実施、補充学習の充実、教え合い学習の実施</p> <p>◇各教科の週末課題、「家庭学習頑張り週間」等の取組による、メディアコアロボットロル力の向上、家庭学習の質的向上</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p><久美浜学園> 指導の重点：学力向上 ○基礎・基本の徹底 ○言語活動の充実 (授業づくり)</p> <p>○家庭学習時間の確保</p> <p>1 課題や具体的方策の明確化と進行管理</p> <p>(1) 課題 ア 学ぶ意欲、規範意識の醸成 イ 学力の充実・向上 ウ 不登校の未然防止と解決</p> <p>(2) 指導の重点 ア 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進 イ 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進 ウ 特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実</p> <p>2 開かれた学校づくり (1) 地域の特性を生かした総合的な学習の時間の充実 (2) 地域や保護者への情報発信と「久美浜学園学校地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ、地域とともにある学校づくりを目指す。</p>
<p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p>○規範意識の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前に行える学校、「命」「今」「仲間」を大切に育てる学校を目指す。</p> <p>○久美浜学園小中一貫教育の利点を最大限に生かし、教職員間の共通理解を丁寧に行いながら系統的に実践を積み上げる。</p> <p>1 生徒の自尊感情を高め、好ましい人間関係を構築する。</p> <p>2 学力の充実・向上方策を共有し、全教職員で実践を進める。</p> <p>(1) 学ぶ意欲の向上、基礎基本の徹底</p> <p>(2) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、言語活動の充実</p> <p>3 「久美浜学園学校地域連携推進協議会」や「地域学校協働本部」等と連携し、新たな仕組みを機能化させ、地域とともにある学校づくりを目指す。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○学校行事、生徒会活動、日常の教育活動において、生徒理解及び指導の充実に向け、生徒の自己有用感・自己肯定感が高まった。</p> <p>○校内授業研究会を実施し、授業改善の視点、具体的な実践の共有を図り、授業改善が進んだ。学力補充の取組を充実するとともに、異年齢による教え合い学習を毎学期実施した。生徒の学びに向かう力の向上、学力の伸長を図ることができた。</p> <p>○特別な支援を要する生徒の授業中の実態を把握し生徒・保護者に丁寧に対応することで、授業及び学級経営等での配慮・支援に結びつけることができた。</p> <p>○問題発生等、早期発見・早期対応に努め、校務分掌を活用した複数対応により早期に解決を図った。生徒及びP T Aを対象に実施し、生徒のトラブルも減少している。</p> <p>△「家庭学習ががんばり週間」を活用し生徒のメディアコアロボットロル力の向上に努めたが、更に家庭学習の充実に必要な要素を図り不登校の改善に努めたが、関係機関等と連携を図り不登校生徒の改善に課題が残った。</p>	<p>具 体 的 方 策</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○各学年のテーマを設定し丹後学を実施した。発表形態を学年発表とした。</p> <p>○教科、道徳科、特別活動等と関連づけた教育活動により、学ぶ意欲、規範意識の向上が図れた。</p> <p>○学力向上に係る校内研修(授業研究を含む)を5回実施した授業改善に努めるとともに、保護者対象のICTを活用した授業公開の機会を設定した。</p> <p>○補充学習の質的向上、全校教え合い学習等により学力の回復を図った。</p> <p>△家庭学習習慣の定着を図るため、家庭学習の手引きの活用、自主学習ノートの取組、メディアコアロボットロル力の向上の取組を進めたが、さらに家庭学習の充実に向け力を入れる。</p>

生徒指導	1 人権教育、道徳教育、法やルールに関する教育の推進と規範意識の醸成 2 いじめの未然防止と解消 3 自己肯定感の高揚、共感的な人間関係の育成 4 不登校（不登校傾向生徒）の解消と未然防止 5 関係諸機関との連携強化	◇人権学習、道徳科等の指導の充実 ◇生徒との対話の重視、学校行事及び生徒会活動における事前指導の充実 ◇「はあとほっとタイム」の実施回数増加 ◇「情報機器の安全な取扱い」の指導及び講演会の実施 ◇主要部会の定例化（生徒指導「いじめ対策」、教育相談）、「気づき」・「今週の気になる生徒」の発行 ◇関係諸機関と連携した非行防止教室の実施 ◇教育支援センター「まわらら」、まなび・生活アドバイザー巡回派遣、特別支援サポーターセンター巡回相談等の活用と専門性の向上	○人権感覚の向上、道徳性に係る成長につながるよう、学年で統一した指導を展開した。 ○学校行事、生徒会活動等において、生徒の主体性を伸ばすため、生徒との対話を大切に生徒理解及び指導の充実に努めた。 ○生徒の実態把握、情報の共有により問題事象、いじめ事象の早期発見・早期対応に努め、複数対応により保護者の理解を得ながら解決を図った。 ○非行防止教室を計画どおり実施できた。 ○「はあとほっとタイム」を給食の時間を活用してほぼ毎週実施し、生徒のよき行いを評価し自己肯定感の向上を図った。 △関係機関等と連携を図り、家庭訪問、別室指導等不登校への取組を強化して、不登校生徒数が増加するなど、不登校の解消に課題が残った。
健康（体育）・安全	1 部活動の充実と達成感の向上 2 緊急時対応訓練の充実 3 食育指導、健康教育、安全教育の充実	◇活動方針を踏まえた部活動指導の実施 ◇緊急時対応訓練の実施（火災、不審者、地震） ◇食育、交通安全教室、喫煙防止教育、薬物乱用防止教育、生命のがん教育、性に関する教育等の実施	○部活動方針を踏まえた計画的な部活動が実施できた。部活動に対する生徒の意欲も高い。 ○緊急時非難訓練を実施し、緊急時への対応の意識を高めた。 ○交通安全教室、健康教育、食育を計画的に実施し、外部講師、府市の事業の活用により内容が充実した。
特別支援教育	1 校内指導体制の機能化 2 障害のある生徒に対する個に応じた指導の充実	◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき指導・支援の実施 ◇発達障害のある生徒の実態把握、有効な手立ての蓄積 ◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談 ◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化	○発達障害のある生徒の実態把握に努め、授業中の支援と通級指導による支援を関連づけ、学年部と連携した指導・支援の充実を努め、授業や学級経営等での配慮・支援に結びつけた。 ○生徒の変容により、保護者の理解が深まるとともに、信頼関係を築くことができた。
開かれた学校づくり	1 信頼される学校づくり 2 双方向の情報交流を活かした学校改善	◇保護者や地域に対する誠実・迅速・丁寧な対応 ◇たより、HP等による情報発信 ◇学校地域連携推進協議会の学園運営協議会への移行の取組、地域学校協働活動の推進、地域連携による教育活動の実施	○迅速、誠実、丁寧な対応により、保護者、地域から一定の信頼を得られた。 ○学校だより・学園だよりの発行、HPの更新等により、タイミーな情報発信に努めた。 ○学校地域連携推進協議会を年3回実施し、各組織の取組や学園の取組に対して意見交換するとともに、「久美浜を支える人づくり」について協議した。学園運営協議会への移行の準備を行った。
次年度に向けた改善の方向性		久美浜学園小中一貫教育により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を積み上げる。 ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善による学力の向上 ②好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上 ③不登校の未然防止と不登校（傾向）生徒の改善	